

新潟県新潟市白根地域方言の立ち上げ詞

福嶋 秩子

I. はじめに

1. 調査対象地: 新潟市南部の白根地域は旧白根市であり、2005年3月21日に新潟市と合併した。信濃川とその支流の中ノ口川に囲まれた、人口40,567人(2005年現在)の田園地帯である。特産品は、梨・ブドウ・桃・洋梨(ルレクチェ)などの果物、コシヒカリ、食用菊(カキノモト)、切花・球根(チューリップ)、サツキ・ユリなどの花卉と仏壇である。しるね大凧合戦が有名である。近年、都市化が進み、人口増加が著しい。
2. 調査年月日: 2005年10月23日 午後1時半から午後4時45分まで
3. 話者: 野口幸雄(昭和2年9月25日生)
4. 調査者・調査場所: 福嶋秩子・野口幸雄宅(現在新潟市名目所に在住)
5. 調査方法: 統一調査票による質問調査
6. その他: ①アクセントは、棒引きアクセント。高さの山に棒を引く。
②統一質問文の通りの答えが必ずしも出なかったが、回答された文例はなるべく多くを掲げることにした。話者のコメントは〈〉内に記した。

II. 調査結果

I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

- (1) どっこいしょ。一休みしよう。
○ヒトヤスミ ショーカ。ドッコイショノショ。ひとやすみしようか。どっこいしょのしょ。〈腰をおろしながらドッコイショノショを言うので、言うとなればこの順序。〉
- (2) どうれ。出かけることにしよう。
○ドーレ。デカケルコトニ ショーカ。どうれ。出かけることにしようか。
- (3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。
○ヨッコラショ。トートー ヤマノ テッペンニ ツイタロ。よっこらしよ。とうとう山の頂上に着いたぞ。〈トートーのかわりに、ヤットとも言う。トートーは「あれよあれよという間に」着いたような場合、ヤットは「苦労してようやく」という場合で、意味が違う。この質問の状況ではヤットの方がいいのでは?〉
- (4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった!
○ヤイヤ。モーチットデ オチル トコラッタ。いやいや。もう少しで落ちるところだった。〈落ちそうになったときに、シモタ(しまった)とは言わない。大事なことを忘れたというときにシモタと言う。ヤイヤは困ったときが起きたときのことば。他に、期待通りにならなかったときに言うアキヤー、取り返しのつかないことが起きたときに言うサーサがある。〉
- (5) くわばらくわばら。恐ろしかった!
○ヤイヤ。オッカネカッター。いやいや。恐ろしかったなあ。
- (6) しめた! 今度の魚は大きいぞ。
○シメタ。コンドノサカナワ オッキーロー。しめた。今度の魚は大きいぞ。
- (7) ままよ。飛び越えるしかない。
○①マー、トビコエルヨリ シカタネーナー。まあ。飛び越えるしかしかたないな。②マー、ショーガ ネーナ。まあ、しょうがないな。
- (8) なにくそ! 負けてなるものか。
○ナニクソ。マケテタマルカ。なにくそ。負けてたまるか。
- (9) しめしめ! 誰も気がついていない。
○シメタ。ダンレモ キガツイテ ネーロ。しめた。誰も気がついていないぞ。

- (10) ちえっ。つまらないなあ。
 ○チェッ。オモシロネーナー。ちえっ。面白くないなあ。
- (11) ちくしょう! 仕返しをしてやる。
 ○ジキショー。シケーシ シテヤルロ。畜生。仕返しをしてやるぞ。〈年寄りジキショーと言った。〉
- (12) くそっ! 覚えている!
 ○クソー。オボエテイレ。くそー。覚えている。
- (13) おやおや、いったいどうしたの。
 ○イッテー ドーシタンダー。いったい どうしたんだ。〈男は「いったい」にあたることは言わない。年配の女の人なら、オココと言う。〉
- (14) えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。
 ○エー。オレワ ムライチバンノ チカラモチラロ。〈「エヘン、エヘン」は芝居がかっている。普通は咳払いをするぐらい。言い出すためにはエーと言うかも。〉
- (15) はてな、ここはどこだろう?
 ○ハテナ、ココワ ドコラロ。はてな、ここはどこだろう。

Ⅱ、他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

- (16) はい、承知いたしました。
 ○ハー、ワカッタレネ。はい、わかりましたよ。〈「ハイ」は返事するときの言い方。承諾するときは「ハー」か。白根の方言では、ワカッタ、ワカッタレ、ワカッタレネは、この順に下位、中位、上位の表現。助詞が付かないのが下位、ネが付くと上位の表現。レはライの転か。〉
- (17) はい。宜しゅうございます。
 ○ハー、イーレネ。はい、いいですよ。〈ネを付けると、方言で最高の言い方になる。〉
- (18) ええ、ここに居ます。
 ○アー、ココニ イタレネ。はい、ここにいましたよ。〈昔はアイと言ったものだが、ここにいるというときに、わざわざ言わないだろう。むしろ、ただ感嘆詞でアーか。また、イルレネよりも、イタレネが自然。〉
- (19) んだ。私の傘です。
 ○オー、オレガガンラロ。おう、おれのだぞ。〈前に傘と言っているときは、繰り返さない〉
- (20) さよう、さよう。あなたの言う通り。
 ○ホンダホンダ。オメノ ユートーリダガノ。そうだ、そうだ、あなたの言うとおりでよ。〈これは大人の友人どうしの間の言い方。〉
- (21) ほいきた。おやすいご用です。
 ○ヨシキタ。オヤスイ ゴヨーラワイ。ゴヨーラウエーとも。よしきた。お安い御用だよ。
- (22) よっしゃ。やりましょう。
 ○ヨージ、ヤルロー。ようし、やるぞ。〈自分に言う場合〉 ヨージ、ヤロレ。ようし、やろうよ。〈相手に言う場合〉
- (23) よしきた。お引き受けいたしましょう。
 ○ハイハイ、ヒキウケルワネ。はいはい、引き受けますよ。
- (24) がつてんだ。一緒に行きましょう。
 ○ワカッタ。イッシヨニ イグワネ。わかった。一緒に行くよ。〈自分が行くとき相手に言う場合〉
- (25) かつぱのへだ。簡単だ。
 ○ソングノコト、オチャノコ セーセーラ。カンタンラ。そんなこと、お茶の子さいさ

いだ。簡単だ。

(26) いえいえ、とんでもございません。

○イヤイヤ。デーシタコト ネンガネ。いやいや。たいしたことないのだがね。

(27) なんの、たいしたことではございません。

○イヤイヤ。デーシタコト ネーンレ。いやいや。たいしたことないよ。

(28) なあに、擦り傷(すりきず)ぐらい、すぐ治るさ。

○ナーニ。スリキズグレー、シマ ナオルサ。なあに、擦り傷ぐらいすぐに治るさ。<北蒲原郡ではソシマと言う。「そのまま」から来ていると言われている。>

(29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って!

○ナンデー。イツモ チョーシノ イー コト バッカ ヨーテ。なんだい。いつも調子のいいことばかり言っ。

(30) いやはや、とんだ目に遭(あ)いました。

○イヤハヤ、トンダ メニ オータテ。いやはや、とんだ目にあつたよ。

(31) へん、勝手にしやがれ。

○フン、カッテニ シヤガレ。ふん、勝手にしやがれ。

(32) なめるんじゃねえよ。こいつ!

○ナメルンデ ネーワヤ。コノヤロー。なめるんでないよ。この野郎。

(33) 冗談じゃない。口から出任せを言って!

○ジョーダンデ ネーワヤ。クチカラ デマカセ ヨーテ。冗談でないよ。口から出まかせ言っ。

(34) だまらっしゃい。出鱈目(でたらめ)ばかり言って!

○ダマレ。デタラメバッカ ヨーテ。黙れ。でたらめばかり言っ。<「ダマレを実際に使うかな?使うとすれば、こうだが」と話者は言う。>

(35) そうは間屋がおろさねえ。黙っていられねえ。

○ソワ サセランネー。ダマッテ イランネ。そうはさせられない。黙ってられない。

(36) うそもへチマもありやしねえ。我慢(がまん)できねえ。

○ウソモ ヘチマモ アリヤ シネー。ガマン デキネー。うそもへちまもありやしな。我慢できない。

(37) 寝言は寝ていえ。このやろう。

○デタラメバッカ ヨーテ。コノヤロー。でたらめばかり言っ。この野郎。

(38) あたりきしやりきのけつのあな。当たり前だ!

○アツリメーダー。当たり前だ。<前半部にあたる表現はない。>

(39) きみようきてれつだ。それは変だ。

○キミヨーキテツラナー。ソリヤー ヘンラナー。奇妙奇天烈だ。それは変だ。

(40) ほほう、それは親孝行なお子さんすね。

○ホー、ソレワ オヤコーコーノ コロモラネー。ほう、親孝行の子どもだね。

(41) まいったまいった。しかたがない。

○メッタ、メッタ。シカタガ ネー。まいった、まいった。しかたがない。

Ⅲ、他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42) もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○アノー、ヤクバ ドコラローネー。あ、う、ヤクバはどこでしょうね。<今はモシモシと言うけど、昔は言わなかった。スミマセンとも言うが、これは標準語。「モーシ

- ワケネーロモ(申し訳ないが)」をここで使うとおかしい。>
- (43) のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。
○ホレネ、オメサン。ヨッテイキナセーヤ。ほれ、おまえさん、寄って行きなさい。<よそものにオメサンと呼びかける。オメサンは敬語。>
- (44) ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。
○ホレネ、ミナセヤ。アッチノ ホーネ コーエンガ アルガネ。ほれ、御覧なさい。あっちのほうに公園があるよ。<相手の注意をひくときの言い方に、丁寧さが異なるホラ、ホレ、ホレネがあり、それぞれ下位、中位、上位のことばである。>
- (45) やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ?
○オイオイ。コンゲネ アサ ハヨーカラ ドゲ イクガンダ。おいおい、こんなに朝早くからどこへ行くんだ。
- (46) よう、兄弟。これから何をするつもりだい?
○オー、テッショ、コレカラ ナニ ショー ツモリラ?おう、大将。これから何をするつもりだい?<テッショは大将のなまり。くだけた大人同士の会話で使う。>
- (47) いざ、さらば。
○マズマズ。まずまず。<これは男の言い方。イザ、サラバのように、気取って言うことばはない。女性の丁寧なことばとしては、「マズマズ センナラマー」とか、「ソナラ マンダラ センナラマー」(それならさようなら)とか言う。>
- (48) ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。
○サーサー、エンリョシネーデ クッテ クンナセヤ。さあさあ、遠慮しないで、食べてください。
- (49) さて、そろそろ一服しませんか。
○サーテ、ソロソロ イップク シネーカネ。さーて、そろそろ一服しないかね。
- (50) これこれ、ちょっと静かにしなさい。
○ホラ、チット シズカニ セヤー。ほら、ちょっと静かにしなさい。
- (51) おい、こら。万引きをしてはいけない。
○オイ コラ。マンビキ シテワ ダメラロ。おいこら。万引してはだめだろ。
- (52) おどりゃあ。いい加減にしないか!
○ネラ。エーカゲンニ セヤ。おまえら。いいかげんにしろ。コノヤロー、エーカゲンニ シネーカ。この野郎、いいかげんにしないか。<ネラは子どもが複数いる時、コノヤローは子どもが一人の時に使う。>
- (53) おのれ、裏切りやがったな。
○アノヤロー、ウラギリヤガッタナー。あの野郎、裏切りやがったな。
- (54) どっこい。その手には乗らない。
○ソノテニ ノラネーロ。その手にのらないぞ。
- (55) どうだ、参ったか?
○ドーラ?メッタカ?どうだ?まいったか?
-
- (56) せいの、よいしょ!
○セーノ。ヨッショ。せいの。よっしょ。
- (57) ようい、どん!
○ヨーイ、ドン。よーい、どん。
- (58) いっせいの、で!
○セーノ。せーの。
- (59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ!
○ヨッショ、ヨッショ、マーヒトイキラ。よっしょ、よっしょ、もう一息だ。

- (60) うんとこしよ、どっこいしよ。もう少しだ。
○ヨッショ、ドッコショ、マーチットラ。よっしよ、どっこしよ、もうちよつとだ。
- (61) わっしよい、わっしよい、祭りだ、わっしよい。
○ワッショ。ワッショ。マツリラ ワッショ。
- (62) はじめはぐう、じゃんけん、ぼん! あいこでしょ。
○ホーリヤン、ホーリヤン、ホーリヤン、ヤッショ。〈これは男の言い方。〉ホーリヤン、ホーリヤン、ホーリヤン、ヤー。〈これは女の言い方。女のほうは優しい言い方。〉
〈なお、アイコデショにあたる表現はない。〉
- (63) きをつけえ、まえへならえ、なおれ。
○キオツケー、マエー ナラエ。ナオレ。きをつけえ、前へならえ。なおれ。
- (64) きりつ、れい、ちゃくせき。
○キリツ。レイ。チャクセキ。起立。礼。着席。

-
- (65) ばんざい、ばんざい。やった、やった!
○バンゼー、バンゼー、ヤッタ、ヤッター。万歳、万歳、やった、やったあ。
- (66) えいえいおう。頑張るぞ。
○エイエイオー。ガンバッロー。〈昔はエイエイオーとは言わなかった。〉
- (67) 中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。
○ナカムラクンノ タンジョーピオ シュクシテ。カンペー。オメデトー。中村君の誕生日を祝して。乾杯。おめでとう。〈昔はカンパイをしなかった。戦後の風俗だ。〉
- (68) やっほう、やっほう。
○ヤッホー、ヤッホー。やっほう。やっほう。〈言うとなればこれ以外にない。昔はまわりに山登りをする人はいなかった。「尾根」も昔はわからなかったことば。金田一春彦の「国語への希望」によれば、長野の方言だったものが、戦後登山が盛んになって広まったようだ。〉
- (69) ふれえ、ふれえ、白組。
○フレー。フレー。シログミ。ふれえ、ふれえ、白組。〈学校で覚えたが、戦前からあった。〉
- (70) おにはそと、ふくはうち。
○オニワースト。フクワーウチ。鬼は外、福は内。〈昔はやったことがない。子どもができてからやった。〉

-
- (71) べらぼうめ、とんでも無い子だ。
○コノヤロー。トンデモネーコラ。この野郎。とんでもない子だ。
- (72) それみたことか、わんぱく坊主。
○ホーラ、コノ バカガ。ほら、この馬鹿が。
- (73) ざまあ、みろ。いい気味だ。
○ザマー ミレ。イー キビラ。ざまー見ろ。いい気味だ。
- (74) ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。
○チキショー。もしくはジキショー。ヒッデ コト イーヤガル。畜生。ひどいこと言いやがる。〈昔はジキショーと言った。〉
- (75) このやろう。どうしてくれようか。
○コノヤロー。この野郎。〈こう言って、パーンと音をたてるだけ。ドーシテクレョーカなどとは言わない。〉
- (76) たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。
○バカガ。フザケタ コト ヨー モンダ ネーワヤ。馬鹿が。ふざけたことを言うもんじゃない。

- (77) ばかやろう、いい加減なことを言うな。
 ○バカヤロー。エーカゲンナ コト ヨーナ。馬鹿野郎。いいかげんなことを言うな。
- (78) あなかま、静かにしなさい。
 ○ホラッ、シズカニ セー。ほらっ、静かにせー。
- (79) しいいっ、静かにして!
 ○シー、シズカニ セー。しい、静かにせー。〈昔シーはなかったし、指をたてる動作もしなかったと思うが、言ったかもしれないので入れておく。学校でも使わなかった。昔の教室は静かだった。〉
- (80) ちちんぶぶい、蛙、蛙、生き返れ。
 ○ゲーロ、ゲーロ、イキケール。蛙、蛙、生き返れ。〈チチンブイブイとは言わないし、おまじないもなかった。オオパコを死んだ蛙にかけると生き返る。〉
- (81) あっかんべい、鬼さん、こちら。
 ○アカメ、コッチ、コッチ。あかめ、こっち、こっち。

- (82) あっばれ、お見事。立派です。
 ○イヤー、ミゴト。リップナ モンダ。いやあ、見事。立派なもんだ。
- (83) でかした、でかした。日本一。
 ○ヤッタ、ヤッタ、ニッポンイチ。やった、やった、日本一。

- (84) しっけい! すみません。
 ○オヤ、ドーショーバ。おや、どうしよう。〈「どうしたらいいかわからない」という意味。おばあさんが、何かもらってお礼のことばが出ないときなど、アー オラ ドーショーバと言う。〉
- (85) あばよ、達者でな。
 ○マズ。まず。〈目下の人、ただし大人同士の場合に言う。子どもには、センナラと言う。丁寧に言うと、マズ マズとなる。他にも、大人に言うときと子どもに言うときで違うことばがある。「どうだ?」は、大人にはナジラ?、子どもにはドーラ?となる。「達者でな」といちいち言わない。〉

調査後のおしゃべりの中で、敬語の地域差の話になる。野口氏によると、白根では、「そうだ」は、子どもにソーラナー、地元の大人にはソーラノー、よそのや先生など目上の人にはソーラネーと言う。はだかのことばで言うことがなく、文末に助詞をつけて言う。しかし、中越(新潟県中部)では、ノーをよそのや先生にも使う。一方、新潟北部の新発田では丁寧な言い方としてソーダネシがある。同様に、白根で中位の敬語(子どもが大人に、妻が夫に話すときのことば)であるアガラッシェ(上がりなさい)、シャッシェ(しなさい)が、中越では上位の敬語(先生などに話すときのことば)である。新発田では、なぜか一番丁寧なことばとしてソ^ンデアリマス(そうであります)がある。新発田に軍隊の兵舎があったので、軍隊言葉が入ったのかもしれない。また、よく新潟方言として例にあがるシナセーヤ(しなさいよ)は方言の最高敬語であり、土地の人には言わない。アルワネ(あるよ)は上位のことばだ。最近気になるのは、若い母親が子どもに敬語を使っていることだ。シナサイというが、昔はシェでよかった。

野口幸雄氏は、白根方言の貴重な話者であるとともに、方言文法全国地図の新潟県内調査を担当した方言研究者である。調査表の質問項目への的確な応答とともに、新潟の方言についてたくさんのご教示をいただいた。ここに記して感謝を申し上げたい。

(ふくしまちつこ 県立新潟女子短期大学)